

今号の特集テーマは「脊椎脊髄疾患に関連する痛みのメカニズム」である。痛みは脊椎脊髄疾患において、患者が治療を求める代表的な主訴であり、患者が手術を希望する、ないし、外科医が手術を患者に勧める症状として、痛みは、運動障害や膀胱直腸障害と並ぶ最多のものといえよう。しかし痛みの難しさは、痛みはあくまで自覚的な症状であって、客観的な評価が困難である点にある。筆者が専門とする電気生理学的手法は、大径線維の、しかも脱落症状とはよく対応するので、たとえば触覚や位置覚を含む感覚低下・脱失があればその局在診断に貢献できるし、筋力低下の評価にも威力を発揮する。しかし、小径線維の、しかも陽性症状である痛みは、最も電気生理との相性が悪いものとなる。そのような脊椎脊髄疾患における痛みについて、本号では各分野のエキスパートが、痛みのメカニズムを明らかにするという困難な課題に取り組んでおられ、臨床に役立つ特集となることが期待される。

神経内科である筆者としては、痛みについてはまずさまざまな疾患でみられる痛みのパターンをよく理解し、患者さんの症候を十分に評価して、正しい診断に結びつけることが第一の課題となる。頸椎症では、肩～背部の痛みの出る部位が障害根ごとに異なることの理解が重要である。特に背部のやや下方、肩甲骨内側の痛みはC7(8)障害を示唆するもので、診断的価値が大きい高頻度の症状である。神経痛性筋萎縮症として紹介された患者に明確な背部痛があることから、頸椎症性筋萎縮症と診断し、針筋電図でも確認されることは非常に多い。手指～上前腕～肩の痛みしびれを訴えて頸椎症と診断されていた患者が、明確な手根管症候群（CTS）であり、近位の症状はCTSのproximal symptomであったというのもよくあるパターンである。このように痛みを含む患者の症候の検討から出発して診断にたどり着くのは、神経症候を最も大事にする神経内科医の十八番である（でなければならない）と強く思っており、そのような神経症候のspecialistである神経内科医の適正な配置と、神経症候であれば神経内科医に最初にreferする、ないし、患者も神経内科医に最初にかかるという欧米では当たり前の体制が、日本でも広まることを願ってやまない。

（園生雅弘）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 安藤哲朗 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 30 No. 6
(2017年6月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ごめ予約購読料 30,700円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2017,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。